

滋賀県南部流域住民の森林に対する意識について

アンケート調査による構造の解明

滋賀県立大学・高橋卓也

(目的および方法)

森林の地域資源としての側面を重視しつつ、その多面的機能を十全に発揮させるよう、管理・経営するにあたっては、住民の意識を把握し、森林管理・経営に反映させることが重要である。そこで滋賀県南部流域住民の森林に対する意識の構造を明らかにするためアンケート調査を実施した。アンケートは大別して、1) 住民の森林に対する見方、利用の仕方についての質問群、2) 森林政策に対する見方についての質問群、からなっている。アンケート調査結果につき記述統計分析、多変量解析を実施し、住民の森林に対する意識構造の解明を試みた。

(結果)

「南部流域森林づくり委員会」(南部流域の森林づくりについて協議する住民・関係者の委員会)は、2006年12月に、南部流域(草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市)に居住の20歳以上の男女1,000人を無作為に抽出し、郵送によるアンケート調査を実施した。有効回答数は365件であった。

調査結果を分析したところ、南部流域住民の森林に対する意識について以下のようなことが明らかになった。

- 南部流域は、森林に対する見方、利用の仕方、森林政策に対する見方に関して、全国とほぼ共通する傾向を示している。

その一方で全国と比較した場合の南部流域の特徴は以下のようなものである。

- 公益的機能を重視した森林整備方針に賛成する比率が比較的高い。
- 森林のアメニティ機能(大気浄化、レクリエーション)に期待する比率はやや低い。
- 木材が循環資源であるという特徴を重視する一方、木材の品質面に対する期待度は低い。

各回答の間の関係を明らかにするため、数量化 Ⅰ 類および数量化 Ⅱ 類を適用した。その結果、次のようなことが明らかになった。

- 45歳以上の人々に森林に対する親近感を抱く傾向が強い。
- 55歳以上の人々または動植物を観察目的で森林を訪れる人々の森林ボランティア参加意欲が高い。
- 森林の機能への期待を分類すると「従自然管理/人為管理」、 「私/公共」の2つの座標軸上に分類できる。この座標軸上において、年代別、居住地別(都市/農村)、森林所有者・非所有者間の違いが見受けられる。
- 60歳以上の人々または森林所有者の間に国産材を使用した住宅への志向が見られる。